

International Dendroecological Fieldweek に参加して

派遣国名:スイス連邦
受入機関: Swiss Federal Research Institute WSL
派遣期間: 2011.9.10~2011.9.26

ヨーロッパやアメリカでは、年輪年代学の研究が盛んに行われています。年輪情報を利用し、歴史的建築物などの年代特定、過去の気候復元、森林動態の解明など、様々な視点より研究が行われています。

2011年9月12日から18日までの約一週間、スイスのほぼ中央に位置する Engelberg という小さな村で、年輪年代学の基礎を学ぶ為の International Dendroecological Fieldweek が開催されました。参加者は、スイス、ドイツ、チェコ、ロシア、エストニア、アゼルバイジャンと多様で、殆どが博士課程の学生でした。

初日は年輪年代学では有名な Schweingruber 教授によるエクスカージョンで、アルプスを下山しながら年輪形成やさまざまな植物について話を伺いました。そこで一番印象に残った名言は "Dendrochronologist has always right." でした。歴史的記述はどこまで信頼できるものか判断しかねますが、そこにあるその年輪は、その個体のおかれた環境を忠実に表現しており、そこに偽りは無い、との事です。

さて、エクスカージョンの直後にグループ分けして、さっそく解析用のサンプルコアを採取しました。2日目からは採取したサンプルコアの解析です。年輪幅を測ったり、他のコアとの比較をしたりなど、細かい作業でした。最終的には、得られた年輪幅より、成長量が大幅に増えている年を見つけ出し、その試験地においてはその前年に間伐が行われたのだろう、と推測できました。この結果は、最終日のプレゼンテーションで発表しました。どのグループも高度なプレゼンテーション能力を伺わせ、雰囲気も良く、楽しく Fieldweek を締めくくることができました。

フィールドウィークを通し、大変多くを学びました。基礎的な部分でも誤解していた所に気付き、またよくわからなかった手法もクリアになりました。博士論文の手法にもアドバイスを受け、更に同じ年輪年代学を学ぶ学生のネットワークができました。



コア採取の様子



解析の様子

このフィールドウィークの後には、Eurodendro2011 という、ヨーロッパ年輪学会があり、これにも参加させて頂きました。

今回の派遣を通し、多くを学び、多くの人と出会いました。今後、博士論文を進めるにあたり、より前向きに進んで行こうと、高いモチベーションを持って帰国しました。

今回の派遣をサポートしてくださった方々に厚くお礼申し上げます。

